

ケイコン

施工スピードと耐久性向上

クイック壁高欄 沖縄自動車道で採用

ケイコン（京都市伏見区、荒川崇社長）はこのほど、日本ヒュームと共同開発したプレキャスト壁高欄「クイック壁高欄」がNEXCO西日本発注の床版取替工事で採用されたと発表した。簡易な構造で施工スピードと耐久性を大幅に向上しており、早期交通開放のための工期短縮につながる。クイック壁高欄は同時期に近畿地区でも採用されており、今後も需要が見込まれる高速道路の大規模更新事業における床版取替工事へ積極的に普及を図っていく方針だ。

クイック壁高欄が採用されたのは「沖縄自動車道（特定更新等）福地川橋（下り線）他」橋床版工した。

同製品は、床版から突き出したアンカーホルトに壁高欄を被せ、無収縮モルタルを充填するシンプルな接合構造を採用。低コストで急速施工と耐久性向上を実現している。横方向の接合は凹凸を組み合わせる「せん断キー」構造としており、縦目地に無収縮モルタルを充填することで作業が完了する。耐久性を高めるため、

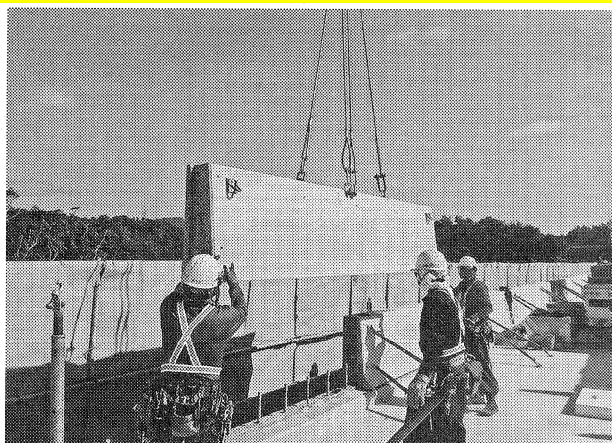
アンカーホルトにはクリップを圧着した鉄筋にエポキシ塗装を施した「GP鉄筋」を使用。また、床版との接合面を舗装面より高く設計することで、接合面の凹凸形状と相まって路面排水の浸入を防ぎ、劣化因子の侵入を抑制している。

国の「防護柵の設置基準」の区分によるSB種のコンクリート防護柵として使用可能であることの実車衝突試験によって検証しており、高速道路総合技術研究所（NEXCO総研）の「構造物施工管理要領」の要求性能も満たしている。

公募ではこのロードマップを踏まえ、火力発電等から排出されるCO2を資源として活用し、炭酸塩、コンクリート製品・コンクリート構造物へのCO2利用技術について、技術開発ならびに全体システムの最適化検討、実証実験などを行うとともに、プロセス全体のCO2削減効果および経済性の評価を行う。

公募期間は5月14日まで。公募に関する説明会は新型コロナウイルス感染症による影響を考慮して実施せず、ホームページに説明資料を掲載している。

炭酸塩、コンクリート製品・コンクリート構造物へのCO2利用技術の導入は、50年以降の中長期目標として汎用的なコンクリート製品の普及が掲げられている。



シンプルな接合構造を採用

NEDO CO2 利用技術で公募

コンクリート製品・構造物へ再利用

新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）は14日、「カーボンリサイクル・次世代火力発電等技術開発（CO2排出削減・有効利用実用化技術開発）炭酸塩、コンクリート製品・コンクリート製品へのCO2排出抑制」の公募を開始した。

カーボンリサイクルは、CO2を資源と捉えて分離・回収し、鉱物化や人工光合成など、素材や燃料へ再利用すること

リーフト構造物へのCO2利用技術開発」の公募を開始した。

2019年6月に経済産業省が策定した「カーボンリサイクル技術ロードマップ」では、カーボンリサイクルに関わる技術が将来有望な選択肢の一つとして位置付けられ、おり、鉱物化によるカーボンリサイクルの例として炭酸塩やコンクリート製品・コンクリート構造物が挙げられている。ロードマップでは2030年の短期目標で道路プロックなどのコンクリート製品、50年以降の中長期目標として汎用的なコンクリート製品の普及が掲げられている。

公募ではこのロードマップを踏まえ、火力発電等から排出されるCO2を資源として活用し、炭酸塩、コンクリート製品・コンクリート構造物へのCO2利用技術について、技術開発ならびに全体システムの最適化検討、実証実験などを行うとともに、プロセス全体のCO2削減効果および経済性の評価を行う。

公募期間は5月14日まで。公募に関する説明会は新型コロナウイルス感染症による影響を考慮して実施せず、ホームページに説明資料を掲載している。

炭酸塩、コンクリート製品・コンクリート構造物へのCO2利用技術の導入は、50年以降の中長期目標として汎用的なコンクリート製品の普及が掲げられている。

社 長 荒 川 崇

温 および行動履歴につ

ある糸魚川発電糸魚川発

レワークへの取り組み

する従業員

二次製品談

「会社を丁寧に見直す絶好の機会と捉え、今は発注者への積極的な営業は控えている」と話すのは、イビコン



社長 所を一時、勤務に専念。現任、清水義弘「現時点で影響は無く、清くなく出荷」

テ

する従業員

する従業員